

音声を中心とした言語活動からの実践的コミュニケーション能力の育成

外国語 英語Ⅱ 普通科・第2学年

石川県立羽咋高等学校・教諭

1 事例の概要

本校は平成16年より SELHi (スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール) 指定を受け、授業を英語で行うことはもとより、文法訳読を中心に据えた授業からの脱却に向け様々な取組を行ってきた。また、以前からも音読には重点を置いてきたが、さらに音声面での指導の充実を図りたいと考えた。近年、和訳先渡し授業の実践、シャドーイングやサイト・トランスレーションなどの通訳訓練法が学校における英語教育の中で注目を集めているため、本校の生徒の状況を踏まえながら、それらの方法の中からいくつかの要素を参考にし、音読を含めた生徒の言語活動中心の授業を試みてきた。

2 実践内容

(1) 目標

- ① 英語を英語の語順で理解する。
- ② 音読を繰り返すことで、英語の表現を獲得し、自己表現力の向上を図る。

(2) 指導上の工夫点 (C-2参照)

- ① 事前に音読と各活動の目的、方法、効果を生徒に十分理解させる。
例) シャドーイング ⇒ 直読直解ができ、ネイティブに近い発音が可能になる。
- ② 予習チェック (ペア)
 - ・ペアで予習ノートを確認し、お互いに ABC で評価。
- ③ 授業は基本的に英語で行い、必要に応じて日本語を使用する。
例) 文法事項については日本語で説明する。
- ④ 同意表現の指示英語を何種類か用意し、教師が使う英語そのものにも注意を喚起させる。
 - ・同じ活動を指示する場合、別の表現を用いて、教師の話す英語も聞き取らせる。
- ⑤ 生徒が注意を払う方向を、教師だけに限定しない。
 - ・個人、ペア、全体の活動を織り交ぜる。例) CD シャドーイング、ペア・シャドーイング。
- ⑥ 学習内容定着のための方策
 - ・授業では、音声から始まり、最後は書く活動へ移行し表現の定着を図る。
 - ・音読テストの実施。定期考査前に試験範囲より、こちらが指定したパートを1分程音読させ、意味の区切り、流暢さを ABC で評価。適宜指導を入れる。
 - ・音読筆写の課題を課す。
 - ・定期考査等で音読したかどうかを見ることができるとの問題の作成。(B-1参照)

※参考「和訳先渡し授業の試み」金谷 憲/高知県高校授業研究プロジェクト・チーム共著 (三省堂)

B-1 定期考査例

3 指導の実際

上記 (2) の実践内容にある各活動を実際どのように行ったかを、いくつか選択し以下に授業展開順に挙げた。授業の流れは指導案 (C-1) を参照。

生徒の活動	教師の指導・支援 等
CDシャドーイング で自己評価	授業の冒頭で、現時点 (自分で予習をした段階) での到達度を確認する。授業の最後に再度自己評価を行う。授業の前後でどう変わったかが認識できる。(C-2参照)

<p>単語活動①（個人）</p> <p>「英単語の定義を聞き、本文中から推測する」</p> <p>※新出単語含む</p>	<p>生徒を立たせ、教師が語の定義を英語で言う。該当単語を推測できた生徒から着席するように指示する。</p> <p>例)</p> <p>T : I'll read a definition of a word. Please guess and find it in your textbook. When you find it, please sit down. Okay? Listen carefully. <i>"Easily damaged or destroyed."</i></p> <p>推測すべき単語は“delicate”。上記のように教師が発話した後、生徒は意味から単語を推測し最終的に本文中から発見し、着席する。</p>
<p>単語活動②（ペア）</p> <p>「板書された単語を相手に英語で説明し、推測させる」</p>	<p>ペアの一方に目を伏せさせ、他方に黒板の単語を見せる。見終わったら黒板の単語を消す。板書された単語をペアの相手に英語で説明する。推測できたペアを指名し、どのようにその単語を伝えたかを発表させる。</p> <p>例) 板書する単語は“garbage”。</p> <p>T : Make pairs and decide who is A or B? Student A, please close your eyes.Student B, I'll write a word on the board, and please memorize it and explain this word to Student A in English and have them guess the word..... Student A, please open your eyes and listen to your partner.</p> <p>B : Ah.....dirty . It is thrown away.....you can see it over there</p> <p>A : Oh, is it “garbage”?</p> <p>B : Yes, that's right.</p> <p>(全てのペアが終了したのを見計らって)</p> <p>T : OK, Mr. Inoue. How did you describe “garbage” in English?</p> <p>Mr. Inoue : It's dirty and</p>
<p>本文のサイト・トランスレーション (ペア)</p>	<p>一方がスラッシュ毎に読んだ英文を、瞬時に他方が日本語に直す。机間指導を行い、発音が出来ていない単語などをチェック。同じ間違いが多い場合は、一旦その活動を中断し、黒板で確認させる。</p>
<p>リプロダクション (ペア+全体)</p>	<p>一方が指定された英文を読み、他方はそれを聞き、同じ英文を言う。ペアで練習後、教師の後について発話する。重要構文を含む長めの1文をピックアップしておく。</p>
<p>本文に関する Q and A（個人）</p>	<p>T/F・英問英答・和訳など。後で回収しチェックする。(C-3参照)</p>

C-1 指導案

C-2 授業の進め方

C-3 本文 Q and A

C-4 ワークシート

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 生徒が常に主体的に取り組める環境ができ、自ら表現しようとする自発性も養えた。
- ② 今まで音声面をあまり重視していなかった生徒が、この授業の活動等を通して音読の効果を体感することにより、音声の重要性を認識し、音読回数を増やした。
- ③ 定期考査において、空所補充、並べ替え、英作文に対応できる表現力を身につけた。
- ④ 英語の語順を意識し、音読することで、リスニング能力が上がった。

(2) 課題

生徒に自由な発想を表現する活動が少なかったため、既習表現の定着を図るためにも、自分の意見を伝達するという活動を取り入れることが必要である。また各活動に対する生徒の集中力が回を重ねることにより落ちて行っているのも否めない。このような状況を避けるためにも、各章または各単元の内容や文章形態、言語材料に合わせて、どのような活動が適しているか、どの活動に重点を置くかをもう少し詰めることが必要である。今まで実践を重ねてきた様々な活動を精選し、一層効果的に行うにはどうすればよいか、そしてさらに、「読み取る力」をどう伸ばしていくかが、今後の課題である。